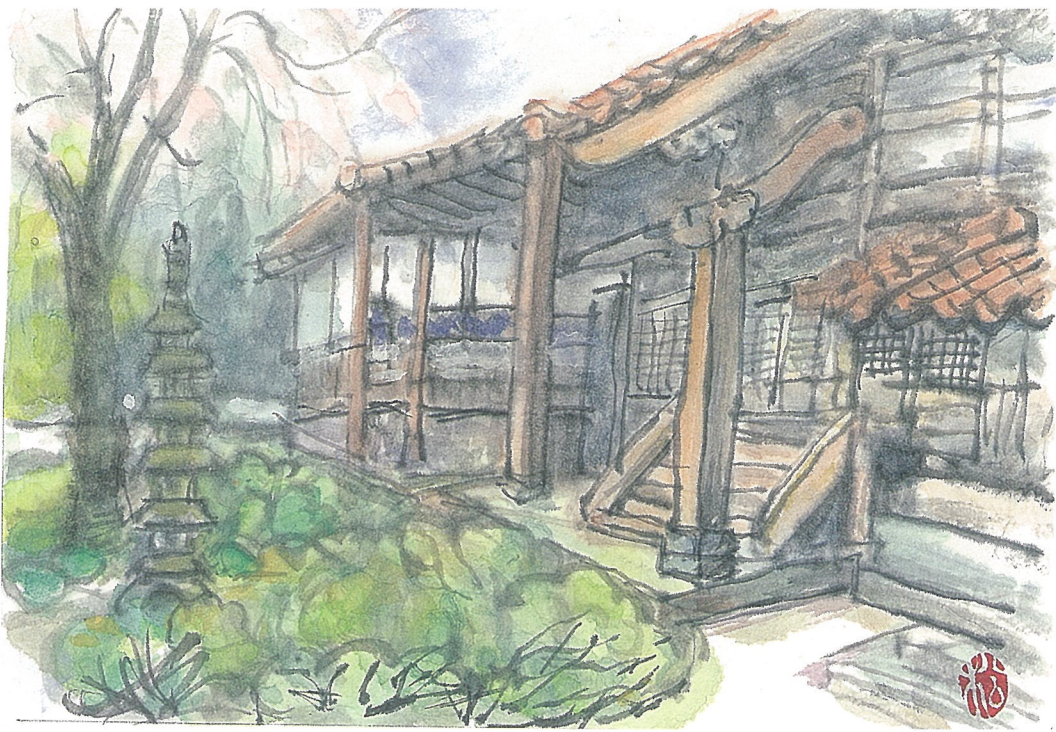


観流山明現寺

(福山)

慶長元年(1596)に定光寺^{じょうこうじ}(和田)の仙室守彭大和尚^{せんしつもりちかだいおしょう}(定光寺14世)が、以前は天台宗であった寺院を曹洞宗に改宗して再興し明現寺[※]の開山となった。
山号は、観流山、寺号は明現寺と称した。



本山は永平寺(福井県)であり、本尊は観世音菩薩^{かんぜおんぼさつ}、釈迦牟尼仏^{しゃかむにぶつ}を安置している。創建当時の堂宇^{※どうう}は、村中(現在の福山公民館附近)にあった。
宝暦12年7月(1762)「午の洪水」により、伽藍^{うま}が総て流出した。^{※がらん}

明和8年(1771)第8世が現在の位置に移転再建された。享和2年(1802)9世の時に火災で焼失した。第10、11世の代で再興された。平成8年10月に本堂、位牌堂などが第20世盛康和尚^{もりやすおしょう}の代に改築され、雄大な伽藍^{きょうわ}が、荘厳^{そうごん}な山寺の雰囲気を見せている。

(注)

開山：寺院の創始者、開祖
堂宇：堂の建物、殿堂
伽藍：寺院の建物の総称